



さりゅ salut VOL.102

童子は、心さえあれば、目の見るところ、耳の聞くところ、みなことごとく教えてあることを知った。
『華嚴経』より



【サリュ】…フランス語で「救い」の意

應典院寺町倶楽部主催事業

いのちと出会う会

毎月第3木曜日(8月・12月・1月休会)
＜應典院研修室B＞
参加費／一般¥1,000
應典院寺町倶楽部会員・学生¥700(お茶菓子付き)

● 3月17日(木)18:30～20:00
第147回「甘えられない怖い母とおびえる子だった私」
話題提供者：伊東裕子さん(元いのちの電話相談員)
母とは甘えられ安心できる人という社会の思い込みは、伊東さんにとってはとても苦しいものでした。幼い頃からの父母の葛藤が「続く暗い家庭を引きずり、さらに伊東さんは母の顔色を見ながらの人生に疲れきり、体への暴力はないが心を引き裂く精神的暴力の連続。傾聴ボランティアなどへ行き「ありがとう」という言葉を受けて自己否定の塊が徐々に解けてきた半生を語っていただきます。

● 4月21日(木)18:30～20:00
第148回「生と死、いのちの巡り～その驚きと喜び」
話題提供者：渡辺みさ子さん(ジョイフルファーム主宰)
一昨年は母が、昨年は夫が他界。死の受容を通して、いのちと向き合い続けてきました。悲しさと寂しさの中で「死は大きな宇宙の流れ、いのちの巡り」だと受け入れ、自分も又限りあるいのちを生きていると実感。今年2月初孫が誕生。この世に生まれたいのちを抱きながら、自分も同時に大きな存在に抱かれていることに感動。この驚きと喜びの感覚「魂のハグ」を、いのちの限り伝えてゆきたいです。

グリーンタイム

失った大切な人に思いを巡らせながら、一人でゆっくりと過ごす時間。手紙や作品作りなど、様々なワークから自分に合ったものを選んでいただけます。

● 3月12日(土)13:30～16:00
※お茶会15:30～16:00
参加費／¥500
会場／研修室B
問合せ／grietime2009@gmail.com(グリーンタイム事務局)
06-6771-7641(應典院事務局)
※4月以降の予定については、詳細が決まり次第、ホームページなどで報告させていただきます。

應典院寺町倶楽部協力事業

詩の学校

詩ってどうやって、作るんだろう。ひとりて詩を書いているけど、誰かに読んでもらいたい。そんなあなたのための「詩の学校」です。

● 3月9日(水)19:00～21:00
4月20日(水)19:00～21:00
参加費／¥1,000
会場／研修室B
問合せ／poemschool@kanayo-net.com
※筆記用具、ノートはご持参ください。

應典院公演情報

<p>関西芸術座付属演劇研究所 「クローブ・ジャングル」</p> <p>● 3月20日(日)13:00/16:00 料 金/¥2,000 問合せ/06-6539-1055(関西芸術座)</p>	<p>大人芸倶楽部 「中人」</p> <p>● 3月26日(土)13:00/18:00 27日(日)11:00/16:00 料 金/前売¥2,000 当日¥2,500 学生¥1,500 高校生以下¥1,000 問合せ/otonakogeiclub@gmail.com</p>	<p>オリゴ党 「天才だって死ぬ」</p> <p>● 4月 9日(土)15:30/19:30 10日(日)11:00/15:00 料 金/前売¥2,500 当日¥2,800 学生¥1,500 問合せ/TEL 090-1718-0015(イワハシ)</p>
---	--	--

outin 應典院寺町倶楽部 TEL:06-6771-7641 FAX:06-6770-3147 info@outenin.com http://www.outenin.com

サリュ Spiritual 年2回発行(A4版16頁) 第1-9号発行中
仏教及び生死にまつわる数々の現場をドキュメントする継続誌
http://www.outenin.comにてPDF版を提供中。

應典院寺町倶楽部は1997年5月に発足し、非営利市民活動の基盤づくりと活性化を促し、コミュニティの健全育成を図り、創造性ゆかたな地域社会の発展に寄与することを目的に活動しています。寺院空間を活用した文化・芸術活動のサポーターでありパートナーである方々の参加を広く呼びかけ、随時入会を受け付けています。(会費・寄付は郵便振替口座「00900-2-122125」へお願いします)

△アトセツ△
始めること、続けること、止めること。この3つの中で最も難しいことは何か。もちろん、正解はない。人それぞれである。ただ、組織運営では始めるよりも続けること、続けることより止めることの方が困難な傾向にある。
サリュは2008年に大リニューアルが図られた。それまでは毎月、特集テーマにあわせて趣向を凝らしたデザインとレイアウトだったが、大リへと判型を変え、内部の記事もコーナーを固定化することでデザインとレイアウトのフォーマットを定めた。変わるのは毎号の表紙の色と、そこに寄せる言葉、さらには各コーナーの自身を二文字で象徴させた漢字である。
それまで編集後記と呼んでいた部分を△アトセツと掲げた。幕が上がる前の前説の方がよく知られているが、後説とは幕が下りた後の説明の意味である。劇場寺院とも呼ばれる應典院ゆえの知恵だ。文字数にして611文字、編集長の責任で自由に記すことが許されたコーナーである。
これまでサリュでは署名記事にしないことを是としてきた。誰が書き手かを明確にするより、誰もが應典院の担い手として同じ水準で物事や出来事を伝えられるようにしようという趣向からなのだが、築港ARCの活動終了時の67号のみ、長らくスタップとして記事とした。それから6年、今号をもって編集長が交代する。次号からの新展開において、何が始まり、何が続き、何が止められたか、関心が寄せられることを願う。
(編)



成人の日となった1月11日、 commonsフェスタの一環として「少年Aと大人B」と題した企画を催しました。7人の少年にまつわる死と生を1時間ごとに取り扱うというワークショップでした。正午から19時までの長丁場ということもあり、体力や集中力が持つのか、といった不安を抱きながら参加された方もおられました。当日は50分ごとに10分の休憩を入れ、高さ7mの應典院本堂ホールから天井から投影された写真や映像をもとに、それぞれが感想や意見を語り合いました。

この企画は2015年6月の「元少年A」による手記『絶歌』出版が背景にありました。1997年の事件当時と同じく、同書は大きな反響を呼びました。たとえ本人を知らなくても人は語る、の考えのもと、進行役により1940年代から2000年代まで、その時代を象徴する7人が選定されました。彼らの人生を手がかりに、大人になることの意味を見つめなおす7時間でした。

戦後70年を見つめて
成人の日

共同事業体として應典院寺町倶楽部が企画した、大阪市「地域等における芸術促進事業」のクロージングフォーラム「地域に根差したアートと文化」が、1月10日に開催されました。8月からcocoroomとアートNPOリンクと共に展開してきた事業では、芸術文化振興の今日的なあり方として社会包摂の観点から迫ってきました。

当日は2人の写真家の筆談トーク、交響楽団による若者の就労支援の取り組みや、東日本大震災以前から地域に寄り添ってきた参加型事業の事例報告なども行われました。なお、本事業の最終報告書は、今後、大阪市経済戦略局のホームページで公開されます。

芸術文化で誰もが疎外されない社会を

切磋琢磨する演劇祭、準備中



應典院舞台芸術祭space×drama2016制作者会議が年末より始まりました。2016年5月から6月の開催に向け、より良いチラシやホームページなどの展開のため、月1回発案意見を交わしています。

今年は、公演ごとに作品のカラーが変化する「カメハウス」、全国学生演劇祭で審査員特別賞受賞「劇団冷凍うさぎ」、ウイングカップ4で最優秀賞受賞「遊劇舞台二月病」、特別招致公演にはエネルギーの塊を客席にぶつける「ステージイガー」、そして協働プロデュース公演としてトリを飾る「無名劇団」の5劇団が演劇祭を盛り上げます。その成果にご期待ください。



転

Report

私の常識を問いなおすため
皆の思いを持ち寄って

不在ではなく非在の他者に
今年度もまた、年の変わり
をまたいで恒例のcommons
フェスタが開催されました。
今年度は3つの演劇、5つの
トーク、5つのワークショップ
、そして展示と音楽公演を
1つずつ多彩な取り組み
が織り込まれました。お寺の
総合芸術文化祭と銘打って
実施しているお祭りの名
前には「共有の財産
(commons)」という言葉が
含まれています。東日本大震
災を経て、今一度それぞれの
経験や知恵を持ち寄ること
が大切だと考え、事務局主導
の企画構成から1998年
の開始当初の実行委員会形
式への実施となりまして、
4年目の実施となりました。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15

- ツキノヒカリ〜満月動物園第貳拾六夜(12/18〜20)
- 如是我聞vol.4〜是の如く、我聞けり(12/24〜25)
- 会いたくて会えなすぎずぎるあなたたちへ
〜baghdad café the 16th performance(12/25〜27)
- そらには、やんわり、うかんでる〜武田力展 アーティストトーク(1/9)
- 声について声で考える
〜アレクサンダー・テクニーク×てがつかカフェ(1/9)
- 表現のたね・歌の景色
〜アサダワタル新著&新譜リリース記念ライブ&トーク(1/9)
- 少年Aと大人B〜匿名・有名・無名な(あなた)と語る(1/11)
- 詩の学校〜ことばを人生の味方しよう(1/13)
- アラフォーから見た終活〜相続・葬儀・墓(1/15)
- 懐徳的イスラーム〜問いを直し教えに迫る6時間(1/16)
- グリーンタイム〜喪失は私たちのどこに息づいているのか(1/17)
- 亀について語り、遊ぶ会〜スッポン鍋を食べながら(1/22)
- 悼みを悼むということ〜「死」の教科書をめぐる朗読とトーク(1/23)
- 浪速お化髪行列!〜節分魔除けの異形の意味(1/24)
- クロージングトーク〜死生観を肉感できたか(1/24)

毎年掲げている統一テーマ
「死と生への身構えの回復」
としました。ちなみに実行委
員会形式での運営に戻って以
来、主題は全ての企画が固
まつてから、最終の実行委員
会で原案が示され、合議で意
思決定されています。そもそ
も実行委員は公募ではなく
事務局からの依頼と、実行委
員からの推薦によつて組織さ
れることもあって、ありがた
いことに、應典院という空間で
何らかの取り組みを重ね、場
がもたらす意味に深い理解と
高い関心をお持ちの方に、こ
ろ高いたいでいます。今回、15
個の企画が並ぶ中で、それら
を束ねる、あるいは包み込む
言葉として、先に掲げた主題
が適切とされました。

かもしなかった二に対して
も、実行委員の皆さんから熱
い思いが寄せられました。阪
神・淡路大震災から20年、尼
崎船線事故から10年、戦後70
年、そして間もなく東日本大
震災から5年を迎えます。メ
ディア等でこれらの区別が失
示されることに対し、なぜ私
は、家族も含め、そうした事
件や事故に巻き込まれず、今
こころにいるのか。そこは今
い人(不在)ではなく、もうこ
こにはいない人(非在)への想
像力を駆り立てよう。今年の
企画群には、それらの願いが
根ざしている、と皆が納得し、
このテーマとなりました。

こうして劇場寺院を舞台
に多角的な演劇公演がなさ
れる中、今年度は比較的長時
間にわたるトークやワー
クショップの企画が複数重ね
られたのも特徴でした。恒例の
24時間トーク、アレクサン
ダー・テクニークと対話で自
分の身体の癖を知る3時間
半、時代を象徴する大人像
を語る7時間、看取られ
る・看取る・供養する世代間
の違ひに向き合う(2時間
半)、イスラーム教の教えと文
化(イスラーム)を紐解く(6
時間)、スッポン鍋をつま
つ創作漢字で遊ぶ(2時間)
、江戸時代の儀式を再現する
(9時間)という具合です。
定例事業「詩の学校」と、グ
リーンタイムも特別編で実
施しました。展示も含め、普
段観ている世界(図)と、その
世界を成り立たせる背景
(地)を反転させ、今こころ
にいる私を見つめなおす37日し
た。

Column

「有難い」への対応



泉寛介(baghdad café脚本・演出)

1980年、兵庫県生まれ。関西学院大学文学部哲学科卒。劇団「baghdad café」(2003年旗揚げ)の脚本・演出を担当。space×drama2009優秀劇団選出。大阪現代舞台芸術協会プロデュース/AAFリージョナルシアター2014〜大阪と愛知〜「坊っちゃん」構成・演出。commonsフェスタ2016の一環として、2015年12月25日から27日まで「baghdad café」会いたくて会えなすぎずぎるあなたたちへ、2016年1月23日に新書朗読「悼みを悼むということ」を上演。今日も演劇に巻き込まれています。

周りの劇団の代表がいなくなった話をたまに聞きます。そういうのを聞くと、大事な人がいなくなるってどう感じるだろうと思います。僕の大事な人は祖母です。祖母は戯曲賞を獲った時に「寛介は天才や」と恥ずかしいくらい褒めてくれました。そんな祖母は昨年亡くなりました。とても悲しかった。その賞とは違いますが、数年前、演劇の賞レースに当選しました。当時、演劇をやめる最後の記念にしようとしていたのです。ところが、賞に選ばれて今日まで演劇を続けることになりました。あの時いなくなっていたらどうなっていたらなろう。

聞けるって有難いです。「有難い」は感謝と別々に、めったにないという意味もあります。代表や祖母がいなくなることも、そういう意味では「有難い」ことなんです。一方、「悼みを悼むということ」では、福知山線脱線事故との距離感や向き合い方で心底悩まされた。しっかり考えたいけど、畏れ多くて正直向き合いたくない。でも最終的には、自分の意見を確認し、いる人といなくなってしまう人、それを見ている人の関係を、しっかり提示しようと思いました。

悼

昨今、表現をする人間はある種の答えを提示することが大切な気がしていたし、何よりこの行為が悼むということに繋がると思ったからです。よく思うのですが、「有難い」でも実際遭遇した時、どうしたらいいかはWikiにも載ってない。じゃあよくわからないことをどうするか。その頼りになるのは、今のところ哲学、宗教、芸術にしかない気がします。今回の上演と朗読は、まさに演劇を使って人や事象に対する「有難い」こと、よくわからないことを立ち止まって確認し、提示する場だったと思います。

分...

Interview

一ノ瀬かおるさん(NPOそーね) 横山弘和さん(NPOそーね)

ちがいがあまままで共に生きるために、「分からなさ」と向き合いつづける。イスラームとの1年に実ったものとは。



今年度の應典院寺町倶楽部は、当事者研究に取り組みNPOそーねと共に、イスラームを学ぶプロジェクトを続けてきた。毎月3日に「まわしよみ・イスラーム」とい
スラーム読書会を交互に開
催し、commonsフェスタ
2016では6時間にわた
り「懐徳的イスラーム」が行
われた。今回この1年の歩み
を振り返り、一ノ瀬かおるさ
んと横山弘和さんの二人に
お話を伺った。

——どのような経緯で、イスラームを学ぶことに決めたのですか。
一ノ瀬(以下I) 2015年1月、はじめてイスラームと直面し、分からなさ戸惑いを抱えていました。イスラーム法学者の中田考先生を應典院にお呼びできないかと思っていました。その直後に日本人の人間殺害事件が起き、報道の過熱により延期を余儀なくされました。それでも学びたい気持ち、冷めない中、二年を通じた連続企画はどうかと山口洋典



▲commonsフェスタ2016「懐徳的イスラーム」(2016年1月16日=本堂ホールにて)

事務局長から提案いただきました。横山(以下Y) 私たちが行っている当事者研究は、自分自身について研究し、その結果を他者と共有するものです。私は仏教徒ですがイスラームのズレを見つめることは、自分がどういう信仰を持っているのかという探求にもつながると感じています。——2015年4月3日より連続企画が始まりました。今振り返っていかがでしたか。
I イスラームの問いを深め、中田先生に質問ができる段階まで高めることが狙いでした。應典院で行われた「まわしよみ・イスラーム」は、新聞というメディアに編集されたイスラームの情報を、私たち参加者が編集し返すというメディア・リテラシーの訓練の場になりました。Y NPOそーねではイスラーム概説の読書会を行いました。定評のある入門書ですが、ムスリムの立場で書かれていて、決して分かりやらずはなかった。おかげでこちらから歩み寄って耳を傾ける機会になりました。この企画を通し、参加者それぞれ疑問を出していく中で、私たちの考え方は必ず理解不能になる箇所も見えてきた。全くちがう発想をしていることが分かった。

——中田考先生と内藤正典先生をお迎えした「懐徳的イスラーム」は、私たちから答えをいただいたこととは大きかったです。信仰者として、信仰者としての真摯な姿勢に感銘を受けました。今後ムスリムの知り合いができたときに、直に関わることもできるチャンネルはつくっておきたい。ライトノベルの作者としての、愛らしいお人柄も知れて良かったですね。
I 中東情勢の専門家ではないのですが、中東の人々ではないので、非常に心を寄せたい。その方が、中田先生と私たちの間に立ってくださったことが有り難かったです。中間地点から見える景色が重ねられることで、私たちも距離感を測れるようになりました。
——最後に、お二人の今後の展望を教えてください。
I 世界をひとつに同化するのではなく、「あなたの世界はそうなんですか、私の世界はこうですか」と言える態度が大事にしていきます。ちがいがあまままで一緒に生きられるはずなんです。Y 信仰者がいても、関係の結び方はあります。私たちの理解よりも、ムスリムの人たちの方がはるかに西洋や日本の価値観を理解している現状がある。まずはそこを追いついていきたいですね。